



学校だより

2学期も感謝！

気がつけば師走。8月18日から始まった例年より長い2学期、コロナ禍で不自由なことも多かったですが、保護者・地域の皆様をはじめ、多くの方々の温かいご支援をいただきながら、本校の子供たちは締めくくりの月を迎えようとしています。

不思議なもので、私たちには、見ようとする対象があまりにも身近過ぎると、却って、その人の成長や所属する集団の変容が見え難くなる傾向があります。ところが、子供たちの成長力には、そんな一般的な傾向性を見事に吹き飛ばしてくれるパワーが秘められていると感じます。毎日、子供に接している教師ですら、「すごい、こんなこともできるようになったのか」とか、「へえ～、そんな見方をするようになっていたのか」と驚かされることが多いのです。

例年より形を変えたランランフェスティバル・ミュージックフェスティバル・自然学校・修学旅行など行事への取り組みは勿論のことですが、授業・休み時間・係活動や委員会・クラブ・もくもく掃除など、日常生活の中にこそ、子供たちの本当の姿がありました。今の自分と仲間を楽しみ、試し、めあてに向かって取り組み、乗り越えようとする姿に、私たちは時に頼もしさと感動を覚え、時にはハラハラと不安感を募らせ、そして、自分たちの指導の在り方は本当にこれで良かったのかと自問自答させられました。

去る11月20日（金）に開催された「力のつく授業」推進指定校体育授業研究発表会は、そんな私たちの取り組み（子供たちの育ち）を、中央区内は基より神戸市内の小学校の先生方や教育委員会の方々に見て頂き、素直なご意見を本校教育に生かすよい機会となりました。以下に、参会された方々から頂戴した声の幾つかを紹介いたします。

- 課題解決に向けて、チームで話し合う姿を見て、さすが、6年生だなと感じました。一人ひとりが発言していて、チームの方向性が決められていました。場の設定や教師の関わり大切さを再認識させてもらった授業でした。
- 子供たちが、いきいきと保健学習に取り組んでいました。ICT（こころちゃん。ドラえもん）と教具とワークシートを上手く使い分けて、分かり易い授業でした。先生も子供たちもお互いのことが大好きだと感じられる温かい学級でした。
- 「全員がキャッチ」を達成できたこと、チーム、クラス、みんなで喜び合っていたことがとても素敵でした。2年生の子供たちがルールを理解し、ゲームを進めることができたのも、掲示やポイントなど細かい手立てがあったからだと感じました。

私たちは、研究会は一つの通過点だと捉えています。子供たちの現実に学び、日々の小さな変化を見逃さない感性を磨き、地道な努力の積み重ねに価値を置き、自分と仲間を大切に「関わり合い、つながるこうべっ子」の育成を今後も目指します。

（校長 中田 宗義）